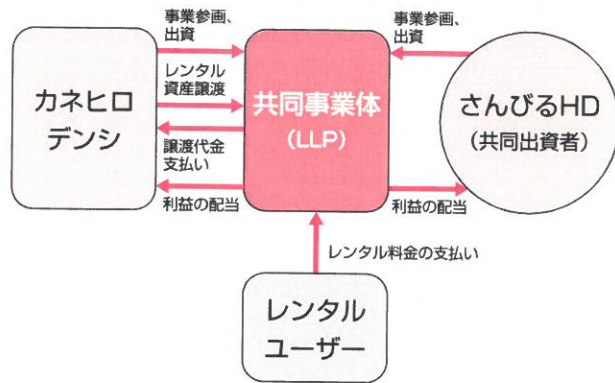


# LED照明機器レンタル事業始める

## さんびるHD カネヒロデンシ 両社出資で4月にLLP設立

LED照明機器レンタルのスキーム図



島根県内中心に売り込みへ  
ビルメンテナンス業を中核とする、さんびるホールディングス(株)(HD、松江市乃白町、田中正彦社長)が、LED照明機器開発・製造販売の株式会社カネヒロデンシ(広島県三原市)と共同でLED照明機器のレンタル事業を始める。両社の出資で有限責任事業組合(LLP)を4月に設立しており、さんびるHDは島根県内を中心にグループの取引先などに売り込む。

カネヒロデンシが開発したLED照明機器をLLPに譲渡し、利用者に貸し出す。LLPは利用者からレンタル料金を受け取り、出資者であるさんびるHDとカネヒロデンシに利益を配当する

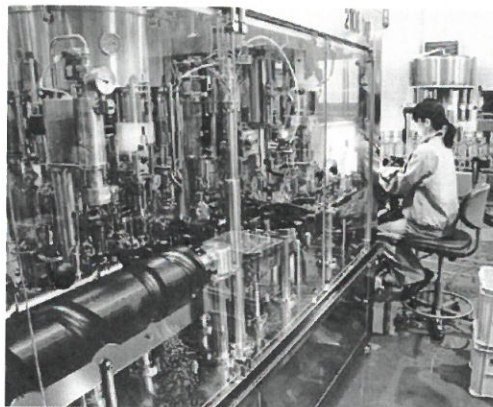
仕組みだ。レンタル期間は個別に設定し、レンタル終了後は出資金を返済する。事業所向けのLED照明機器の販売やレンタルで実績を上げていくカネヒロデンシが構築した仕組みで、同社とし

ては出資金を運転資金に充てられる上、出資者の営業網を活用して自社の機器を普及させられるメリットがある。事業を山陰側で強化しようと、経営多角化を進めるさんびるHDに参画を提案した。さん

びるHDは事業所や大規模農家を中心に営業活動を行う。さんびるHDは子会社4社で経営多角化を推進。ビルメンテナンス業や飲食業のほか、高濃度トマト生産・販売の(株)さんちゃんファーム(松江市乃白町)などの事業展開もある。(松浦光芳)

## 瓶詰めライン刷新 島根ワイナリー

### 多様な容量、形状に対応 スパークリングも内製化 新たな顧客、販路開拓へ



新型機械に更新した瓶詰めライン＝出雲市大社町菱根、島根ワイナリー

(株)島根ワイナリー(出雲市大社町菱根、岡良美社長)が、ワインの瓶詰めラインを刷新した。さまざまな容量や瓶形状に対応可能な機械を導入し、飲み切りサイズの商品投入などで新たな顧客層や販路の開拓につなげる。炭酸ガスを添加するスパーク

リングワインの瓶詰めラインも新設し、増産を目指す。瓶詰めラインは瓶の内部洗浄から充填、打栓、ラベル貼りまでを自動で行う。従来の機械は設置から30年余りが経過し、充填できる容量や瓶の形状も限られていた。新型機械は4月中旬に稼動

し、第1弾で720ミリリットルのみだった「清酒酵母仕込 甲州」の300ミリリットルの商品を6月にも発売する予定。飲食店を中心に寄せられていた小瓶の要望に対応し、販路を広げる。また輸出を視野に入れ、2020年度に予定する果実酒のリニューアルに合わせ、ワインボトルの基準サイズを国際規格の750ミリリットル、375ミリリットルに変更する。日本の主流は720ミリリットル(ハーフは360ミリリットル)で、国内の他のワイナリーでも切り替える動きが広がっているといる。スパークリングワインの炭酸ガス添加と瓶詰めはこれまで、山梨県内のワイナリーに委託していた。内製化することで輸送コストと委託費をカットし、現在の720ミリリットルから国際規格の750ミリリットルに切り替えた後も価格を据え置く方針。自社製造で、需要が高まっているスパークリングの商品展開を強化し、7月をめぐりに甘味果実酒でスパークリングの新商品も投入する。

瓶詰め機械はイタリアからの輸入で、総事業費は1億4千万円。国の交付金事業に採択され、約半額の補助を受けた。新型機械の導入で、19年度は前年度比5万本増の55万本の製造を目標に掲げている。(吉田雅史)